

平成22年度（2010年度）日本留学試験

日本語

（125分）

I 試験全体に関する注意

1. 係員の許可なしに、部屋の外に出ることはできません。
2. この問題冊子を持ち帰ることはできません。

II 問題冊子に関する注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
2. 試験開始の合図があったら、下の欄に、受験番号と名前を、受験票と同じように記入してください。
3. 問題は、記述・読解・聴読解・聴解の四つの部分に分かれています。それぞれの問題は、以下のページにあります。

	ページ
記述	1～3
読解	5～29
聴読解	31～45
聴解	47～50

4. 各部分の解答は、指示にしたがって始めてください。指示されていない部分を開いてはいけません。
5. 足りないページがあったら手をあげて知らせてください。
6. 問題冊子には、メモなどを書いてもいいです。

III 解答用紙に関する注意

1. 解答は、解答用紙に鉛筆（HB）で記入してください。
2. 記述の解答は、記述用の解答用紙に日本語で書いてください。
読解・聴読解・聴解の問題には、その解答を記入する行の番号 **1**、**2**、**3**、…がついています。解答用紙（マークシート）の対応する解答欄にマークしてください。
3. 解答用紙に書いてある注意事項も必ず読んでください。

※ 試験開始の合図があったら、必ず受験番号と名前を記入してください。

受験番号			*				*							
名前														

記述問題

説明

記述問題は、二つのテーマのうち、どちらか一つを選んで、記述の解答用紙に書いてください（解答用紙には、テーマの番号を書く必要はありません）。

文章は横書きで書いてください。

解答用紙の裏（何も印刷されていない面）には、何も書かないでください。

記述問題

以下の二つのテーマのうち、どちらか一つを選んで 400字から500字で書いてください
(句読点を含む)。

- ① 現在、日本では、調理済み食品を買う人や、ひとりで食事をする人が増えるなど、食生活が変化しています。

食生活の変化について、あなたの国や知っている地域の状況を説明してください。

そして、その状況はこれからどうなっていくと思うか、あなたの考えを、理由を挙げて書いてください。

- ② 現在、日本では、都市部に人が集中することで、様々な方面に影響が出ています。

都市部への人の集中による影響について、あなたの国や知っている地域の状況を説明してください。

そして、その状況はこれからどうなっていくと思うか、あなたの考えを、理由を挙げて書いてください。

——— このページには問題はありません。 ———

読解問題

説明

読解問題は、問題冊子に書かれていることを読んで答えてください。

選択肢1, 2, 3, 4の中から答えを一つだけ選び、読解の解答欄にマークしてください。

I 次の文章の内容と合っているものはどれですか。

1

科学的研究では、本来の問題を解決しただけでは、「問題を解いた」とは認めてもらえないことがよくある。過去の研究から、なにか誤った見解が生まれている場合、それが誤りであることを証明してみせなければ、ほかの学者たちは、こちらの解答が正しいとは認めてくれないのである。このことは、研究組織のありかたを考えると、おもしろいことに気づかせてくれる。

ふつうに考えると、研究者の数は、多ければ多いほど、研究は速く進むような気がする。ところが、研究者の数が多いと、それだけ、誤りが生み出される可能性も高くなるわけだ。その誤りを正すためには、本来なら必要がないはずの研究をやらなくてはならないことになってしまう。

わたくし自身、以前、他人の研究の誤りを証明するために、ずいぶん苦勞したことがあった。… (略) …

しかし、誤りを正すことに成功すれば、まだいい。誤りにだれも気がつかないと、研究全体がまちがった方向に進んでしまうことにもなりかねない。

そうしてみると、研究プロジェクトを組むようなとき、たくさんの研究者をかきあつめるよりは、少数精鋭で臨んだほうが、研究が速やかに進展する、という場合もあるのかもしれない。

(高野陽太郎『鏡の中のミステリー』岩波書店)

1. 研究者の数が多いほうが、おもしろいことに気づく可能性が高くなる。
2. 研究者の数が多いほうが、研究の苦勞が減る。
3. 研究者の数が少ないほうが、研究を誤る可能性が高くなる。
4. 研究者の数が少ないほうが、研究を速く進められる可能性がある。

Ⅱ 次の文章で筆者は、弁護士の仕事をする上で重要なことは何だと述べていますか。

2

弁護士の仕事の真ん中にあるのは、他ならぬ生きた「人間」であり、「社会」である。つまり、弁護士という仕事の真髄は、あくまで、「困っている人」＝依頼者のニーズに誠実に耳を傾け、それに応えるべく、依頼者のために最善を尽くすことこそであり、それと無縁な法律論を、^{うんぬん}云々することではない。たとえば、料理包丁やまな板が、^{おい}美味しい料理をつくり出すための道具であるように、法律もまた、人（依頼者）を救うための道具に過ぎない。美味しい料理を出すのを忘れ、いつまでも、料理包丁やまな板に見とれ、手入れをしているべきでないのと同様、法律そのものやその解釈論に埋没し、依頼者の気持を置き去りにしてしまうことは、法律実務家にとって、いわば本末転倒のことだと思うのだ。

だから、私は、弁護士という実務家に欠かせない資質は、法律そのものを好きであるということよりも、生きた「人間」や「社会」が好きであること、少なくとも関心があるということなのだと思う。

（道あゆみ『法律ギライ』のあなたへ』『法学セミナー』第53巻4号 日本評論社）

1. 何より法律が好きであること
2. 法律の勉強に力を注ぐこと
3. 依頼者に法律を詳しく教えること
4. 依頼者の気持や利益を優先すること

Ⅲ 次の文章で筆者が、寮生活について最も言いたいことはどれですか。

3

西洋の教育伝統に、若者を親から離して寮に入れて教育するところが多かった。この制度は欧米の大学にいまも残っている。オクスフォードやケンブリッジは全寮制で、ある回数以上カレッジで飯を食わないと卒業できないようになっている。

日本でも、第一高等学校などの旧制高校は全寮制をとり、施設上それができないところは一年間だけでも寮生活をするを課した。戦後は住宅事情も悪かったが、さらにその後は個人主義が発達して、あまり寮生活をするようなことは喜ばれなくなった。たしかに個人によって、集団生活が個の自立を抑圧するような面もあろう。ただ、ここでは親からの自立ということが本旨である。生まれたところから離れ、親から離れ、大学のある都会に出ると、若者は大人になって自立しなければという気分になるものである。

(中山茂『大学生になるきみへ』岩波書店)

1. 寮生活は、現代の若者にはふさわしくない。
2. 寮生活には、若者を大人として自立させる働きがある。
3. 寮の集団生活よりも、若者は一人で生活させるべきだ。
4. 寮生活は、若者の個人主義をいっそう盛んにしてくれる。

IV 次の文章で筆者は、下線部「無敵な人」とはどんな人だと言っていますか。

4

「私は強いんだ。どんな敵が来ても負けないんだ」と思っている人は、一見、強そうに見えます。しかし、何かが起こるたびに「勝つか、負けるか」といった意識が働くため、毎日が戦闘態勢です。そういう人の人生は、緊張の連続。決して、強いとは言えません。

無敵な人に共通しているのが、敵、味方という概念がないことです。争おうと挑んでいっても、その相手に自分を敵だと思ふ気持ちがなければ、争いは成立しません。相手に争う気がないとわかって、さらに攻めてくる人は、まずいないでしょう。だからこそ無敵なのです。そういった人は、争い知らずで生きていけます。人とケンカしたり、もめたりすることなく、ひょうひょうと毎日を生きながら、自分の人生を充実させていくことができるのです。

(中野裕弓『100人の村 争わないコミュニケーション』講談社)

1. 自分の強さを信じている人
2. 常に戦闘態勢にある人
3. 相手を敵だと思わない人
4. 自分のことだけを考えている人

V 次の文章で、講師が子どもたちに大切なこととして教えたことはどれですか。

5

「成功の反対は？」。静まり返った小学6年生の教室で、講師が最初の質問をすると、一人の男の子が「失敗」と答えた。ほかの子もその通りという様子だ。講師は続ける。「そうだね。でも、今日は違います。成功の反対は、何もしないことです」。子どもたちは少し戸惑った様子で、講師の次の言葉を待っていた。

… (略) …

授業の最初に講師が「失敗」を肯定するのは、必ずやる「儀式」の一つだ。初めて学ぶことには失敗がつきもの。でも、恐れず「やってみる」ことで、「できる」ことは増えていく。それは仕事でも同じ。授業を受けて、自分でもできるという自信を持って欲しい。そんな思いで、授業の最初は必ず、同じ問いを投げかけている。

(池谷聡「成功の反対は【何もしない】」朝日新聞2007年7月22日)

1. 成功すること
2. 挑戦してみること
3. 何もしないこと
4. 自分の意見を言うこと

VI 次の文章の「赤ちゃんの声がわり」について、内容と合っているものはどれですか。

6

はじめての声がわりが、それぞれの赤ちゃんで厳密にいつ起きるのかを推しはかることは、今のところ不可能である。ひとりひとりごとに、起きる時期にはかなり個人差がある。生後三ヵ月早々という早い赤ちゃんもいれば、生後四ヵ月後半というのもまれではない。一月余りもずれがあることになる。

ただ、それぞれの赤ちゃんが声がわりをしているかどうかを調べてやることは、比較的簡単だ。きげんの良いときに、赤ちゃんをくすぐってやればよい。笑って声をたてさせるのだ。咽頭^{いんとう}が十分に拡張していると、笑い声は「ハッハッハッ」と口を伝ってやってくる。もしまだ声がわりしていないと、「グググッ」と猫がのどを鳴らすような音が奥であるのがせいぜいで、笑い声とはならない。鼻に空気が抜けるにすぎない。

(正高信男『0歳児がことばを獲得するとき』中央公論新社)

1. 声がわりの時期は赤ちゃんによって違う。
2. 赤ちゃんの声がわりの時期は正確に予測できる。
3. 声がわりをした赤ちゃんの咽頭は狭い。
4. 声がわりをした赤ちゃんは猫のようにのどを鳴らす。

VII 次の文章で、筆者は何が必要だと考えていますか。

7

これから日本は人口減少の時代に入ります。労働力人口は既に減り続けています。2007年からは「*^{だんかい}団塊の世代」が一斉に定年退職を迎える事態が重なります。企業は労働力の量と質の低下が、経営の基盤を揺るがしかねないと危機感を強めています。

製造業では当面する**2007年問題を乗り切るため、熟練者たちの知恵と技能を若い世代に継承する取り組みを始めています。うまくバトンタッチできるかが企業の命運を分けます。

日本の製造業の強みは、高度な***部材を供給する中小企業群の存在と質の高い技術者たちが培ってきた「現場力」にあります。今後も強みの源泉の一つである人材の育成＝ひとづくりに力を注がねばなりません。

(「ものづくりは国づくりの礎」西日本新聞2005年8月14日)

* 団塊の世代：1947年～1949年に生まれた世代。他の世代と比べ、人口が特に多い。

** 2007年問題：2007年以降、団塊の世代に属する労働者が一斉に定年退職を迎えることに伴う様々な問題のこと。

*** 部材：構造の一部となる材料。

1. 現場の技術を次の世代に確実に伝えていくこと
2. 高度な部材を供給する製造業を数多く育てること
3. 経営の安定のため、団塊の世代の定年を延長すること
4. 中小企業が、現場で働く若い労働力をもっと増やすこと

Ⅷ 次の文章は本田さんが書いたEメールです。本田さんがメールを書いた目的はどれですか。

8

宛先： 鈴木様

件名： お借りしたビデオの件

先日はいろいろとありがとうございました。

実はあのあと、加藤さんからメールをもらい、加藤さんも私と同じような問題を抱えていることがわかりました。それで先日お借りしたビデオですが、私が見たあと加藤さんにも見せてあげたいと思いますがよろしいでしょうか。

本来なら鈴木さんに一度お返ししてからのほうが良いとは思ったのですが、来週ちょうど加藤さんに会いますので、そのときに加藤さんに渡し、加藤さんからお返しすることにできればと思います。

貴重なものをお借りして大変申し訳ありませんが、もしすぐにはお使いにならないようでしたら、そのようにさせていただきたくお願いいたします。

ご都合が悪い場合は遠慮なくおっしゃってください。

よろしくお願いいたします。

本田

1. 鈴木さんに直接ビデオを返したい。
2. 鈴木さんから直接ビデオを借りたい。
3. 鈴木さんから加藤さんにビデオを渡してほしい。
4. 加藤さんに直接ビデオを貸したい。

IX 次の文章の下線部「方法論的社會主義（方法論的集合主義）」とは、どのような考え方ですか。

9

社会は人間の集まりであり、ひとりの人間もいなければ社会は存在しえないという意味では、人間の諸行動とその集まり、その行為の諸結果が社会をつくっていると言える。逆に、人間個々人の誕生にさきだって存在する道徳や規範、言語などの諸制度を習得することなしには人間は人間として行動することができないという意味では、社会が人間をつくると言わざるをえない。このような2つの見方はおのおの成立しうるものであり、どちらが先行すると決着をつけることはできないわけだが、前者のような*パースペクティブは方法論的個人主義あるいはマイクロ・アプローチ、後者のようなパースペクティブは方法論的社會主義（方法論的集合主義）あるいはマクロ・アプローチとよばれる。

（藤村正之「2章 謎にみちたコスモスへ」川崎賢一他編『社会学の宇宙』恒星社厚生閣）

*パースペクティブ：観点

1. 人間が社会をつくるという考え方
2. 社会が人間をつくるという考え方
3. 1と2のどちらも成立しうるという考え方
4. 人間と社会のどちらが先に成立するかは決められないという考え方

X 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

この地球を、生物が棲みやすいように作りかえてきたのは、生物じしんなのだ。この地表上に、酸素(O₂)をつくりだしたのは生物である。そしてやがて大気上層にオゾン(O₃)層ができて、紫外線からDNAを守ってくれるようになってはじめて、生物は陸地に進出できたと考えられている。それははじめ、植物だったろう。こうして岩石ばかりだった地球上に土壌が形成され、地球表面が生物に棲みやすい環境に改造される。そのなかで生命の進化がすすみ、多様な生物がうまれて、最後に人間が登場する。

無数の生物たちは、今もこの地球を、自分たちが棲みやすいように作りかえている。

(A) 最後に生まれた人間は、それをたえず破壊している。

(細谷昂「地球環境」細谷昂他編『見える現代——社会学の眼』アカデミア出版会)

問1 (A) に入るものとして最も適当なものはどれですか。

10

1. それから
2. したがって
3. ところが
4. このように

問2 筆者は人間以外の「生物」について、何と述べていますか。

11

1. 生物は、環境を自ら生存しやすいように変えてきた。
2. 生物は、人間の生活環境を壊すことがある。
3. 生物は、環境に合わせて自分自身を変化させてきた。
4. 生物は、環境を壊さなければ進化することができない。

このページには問題はありません。
次のページに進んでください。

X I 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

私は、幼い子どもたちが時間の長さをどう感じているのかをさぐるため、様々な実験をしてきました。

たとえば、ある一定の時間に子どもたちに音を聞いてもらうと、たくさん音の鳴った場合のほうがずっと長く感じます。大人でもその傾向はあるのですが、子どもの場合には、その程度が大きいのです。

子どもは、時間の長さを、その時間内に起きるできごとの数で認識しているようです。できごとが「たくさん」つまっている時間は「長い」。「モア (MORE=より)」なら「モア」という感覚なのです。

大人は、「音は多く鳴ったけど、音と音の間は短かった」などと補正してとらえます。それは一様な「時計の時間」に慣れる間に、補正するように自然に学んだ結果です。

(松田文子「こどものじかんは、できごと時間」『母の友』2009年5月号 福音館書店)

問1 子どもが感じる「『モア (MORE=より)』なら『モア』という感覚」の具体例として、適当なものはどれですか。 12

1. 5秒間にベルが5回鳴ったら、10秒間にはベルが10回鳴るだろうと推測する。
2. 5秒間にベルが5回鳴った場合より10回鳴った場合のほうが、時間を長く感じる。
3. 5秒間にベルが5回鳴った場合より10秒間にベルが10回鳴った場合のほうが、音と音の間隔を長く感じる。
4. 5秒間にベルが5回鳴った場合より10回鳴った場合のほうが、音と音の間隔を短く感じる。

問2 この文章の内容と合っているものはどれですか。 13

1. 子どもと大人で、時間の長さの感じ方に差異はない。
2. 子どもは大人よりも時間を長くとらえる傾向がある。
3. 人は、一度学んだ時間の感覚を変えることができない。
4. 大人の時間の感覚は時計に影響されている。

X II 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

創造性とは一体何なのか？ これは大変難しい問題である。しかし、これまでの数多くの発見を顧みると、次のようなことがわかってきた。すなわち、創造性を発揮するうえで重要な思考とは、「一見、無関係」のものを関連させる思考の働きなのである。これを「拡散的思考」という。拡散的思考は与えられた課題や情報を自発的に加工して、多種多様な情報を自ら次々とつくりだし、まったく新しい視点から多くの解答を見出していく思考のことである。このような思考過程は必ずしも論理的・分析的とはいえず、ときには非合理的・非分析的なインスピレーションとして生じることもある。しかし、創造的な思考をするうえでは重要なものなのである。

これに対して、論理的・分析的・系統的に筋道を立てて、解答にたどりつくときに働く思考を「収束的思考」という。学力検査や知能テストのように、解答法がきちんときまっていて、1つまたは少数の正解しかないような問題を解くときに働く思考である。この場合、与えられた情報や条件の利用の仕方には一定のルールがあり、かつてに加工・修正することは許されない。

(堀野緑「9講 言語と思考」堀野緑他『よくわかる心理学28講 女性の視点から』福村出版)

問1 創造的な発想をするためには、どの思考を働かせますか。

14

1. 拡散的思考を働かせる。
2. 収束的思考を働かせる。
3. まず、収束的思考を、それから拡散的思考を働かせる。
4. 拡散的思考も収束的思考も同時に働かせる。

問2 創造的な発想をするためには、何が重要だと述べていますか。

15

1. つながりのなさそうなものを関係づけて考えること
2. ものごとの背景にあるもともとの考えを理解すること
3. ものごとの論理や筋道を理解すること
4. 与えられた情報や条件を、ルールに基づいて利用すること

X III 次の文章で筆者は、クジラの起源に関する今日までの研究について解説しています。
これを読んで後の問いに答えなさい。

イルカとクジラはまったく同じなかまで、イルカには申し訳ないが、大雑把に鯨類と呼ぶことが多い。最近まで彼らの祖先がどのような動物なのか、はっきり分かっていなかった。かつて陸を歩いていた哺乳類が海に入ったものだという事は確かなのだが、では、どんなグループからクジラやイルカが進化したのかとなると、あまり明確ではなかったといえる。およそ五千万から四千万年以上前に陸上を歩いていたある肉食性の哺乳類の頭部が、ほぼ同時期の古いタイプのクジラによく似ていることから、そんなグループから*海棲のクジラが生み出されたと信じられていたこともある。

ところが、二十一世紀に入る頃から、幅広い哺乳類の遺伝子を調べた仕事が相次ぎ、クジラの遺伝子が、ウシやシカ、ラクダやイノシシ・ブタのなかまに非常に近いことが分かってきた。これらのいかにも植物を食べそうな大型の獣たちを偶蹄類と呼ぶのだが、鯨類は泳ぐために形を変えてしまっているけれども、実際には偶蹄類にとっても縁が近く、大昔、古い偶蹄類が海に泳ぎ出て鯨類を生み出したという学説が説得力をもったのである。ダメを押すかのように、後肢のある最初期のクジラの化石が西アジアから発見されて、彼らが多くの点で偶蹄類と同じ特徴をもっていたことが明らかにされるに至る。そのなかでももっとも有力な根拠は、足首の骨だ。私たちがよく知る偶蹄類の足首の骨は、二つ並んだ滑車のような関節を備えている。この形が、もっとも古いタイプの、(もちろん足のある)クジラの足首と**瓜二つだったことが証明されたのである。

(遠藤秀紀『解剖男』講談社)

*海棲：海にすむ

**瓜二つ：よく似ていること

問1 二十世紀までの研究では、クジラの祖先はどのような動物だと考えられていましたか。

16

1. 肉食性の哺乳類
2. 草食性の哺乳類
3. 偶蹄類
4. イルカ

問2 下線部「もっとも有力な根拠」とされているのは、どれですか。

17

1. 古いタイプのクジラと肉食性の哺乳類とで、足首の骨が似ていること
2. 古いタイプのクジラと偶蹄類とで、足首の骨が似ていること
3. 古いタイプのクジラの足首に似た骨が、現在のクジラにあること
4. 偶蹄類の足首に似た骨が、現在のクジラにあること

XIV 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

近代以前の社会がごくゆっくりと変化していく社会であるのにたいして、近代社会はそれとは比較にならぬ速度で変化していく社会だ。変化をもたらす最大の要因は工業生産力の発展であって、物質的な富を増大させるこの変化は、大多数の人びとによって社会の「進歩」として歓迎された。昨日と同じように今日があり、今日と同じように明日があるのではなく、昨日より今日が、今日よりも明日が前へ進むのが近代社会であり、前に進める力として個人の自由な創意、自由な活動、自由な生きかたが容認され、歓迎される。停滞を嫌い、変化や進歩をよしとする近代社会は、社会の目に従って生きる生きかたよりも、社会の目に*^{あらが}抗って生きる生きかたのほうを時代にふさわしいものにとらえるのだ。

それに、社会がめまぐるしく変化し進展していく状況下では、社会の目に従うといっても、その目の変化し進展していくから、前近代におけるように、社会の目が確固たる基準とはなりにくい。…（略）… 前近代の優等生は、確固不動の社会の目に従う安定した生きかたを堅持できたかもしれないが、それとの比較でいえば、近代の優等生は社会の目に従おうとしても、そちらが多様で不確実であるがゆえに、その生きかたも不安定とならざるをえないのだ。

（長谷川宏【高校生のための哲学入門】筑摩書房）

*抗う：逆らう

問1 下線部「この変化」が生じた背景として、最も適当なものはどれですか。

18

1. 物質的な富が増大したこと
2. 工業生産力が伸長したこと
3. 社会の進歩が止まったこと
4. 個人の自由が容認されたこと

問2 近代の優等生の生きかたが不安定にならざるをえない理由はどれですか。

19

1. 近代社会では後退することができないから
2. 社会のものの見方が絶えず変わっていくから
3. 社会に逆らって生きなければならないから
4. 自由な生きかたをしなければならないから

XV 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

自分の専門分野、「この道でプロを目指す」という目標をどうやって選べばよいでしょうか。

これは誰しも悩む問題です。自分のやりたいことをみつけるには時間がかかります。しかも一度見つけたと思っても、途中でしばしば変わります。

誰もが考えるように「自分の好きなものをやる」のが理想的です。

しかし「これが好きだから」と思ってやってみても、自分に才能がないことに気づいて、断念することもあるでしょう。

あるいは社会に出て実際にその仕事をやってみたら、思っていたのと全然違っていたりすることもあります。

ショックを受けるかもしれませんが、実はむしろそのほうがよくあることなのです。

少なくとも若いうちは、「自分が何をしたいのか」という対象はくるくる変わるものです。社会のことも、自分自身のことも知らないのですから当然です。

ですから若いうちはあまり頭で先々のことまで考えずに、自分の好きなこと、自分がやりたいことにぶつかるまで、何でもやってみて探したほうが良いと思います。

何かの仕事をやってみて、自分がほかの人と比べて相対的に優れているという状況になると、だいたいそれが好きになるものだ、ということです。

(榎原英資『君たちは何のために学ぶのか』文藝春秋)

問1 この文章で筆者が勧めていることはどれですか。

20

1. 始めた仕事は最後までやりとおすこと
2. 若いうちはいろいろな仕事を試みること
3. 仕事をする前に、その仕事についてよく調べること
4. 自分に合った仕事を早くみつけて経験を積むこと

問2 下線部「ショックを受けるかもしれません」とありますが、どんなことにショックを受けると述べられていますか。

21

1. やりたい仕事を見つけるのに時間がかかること
2. やりたい仕事をやめさせられること
3. やりたかった仕事が自分に合わないこと
4. やりたい仕事が多岐にわたって変化していきってしまうこと

XVI 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

鳥の中には、頭を動かさずに周囲 360 度すべてが見えるというものがある。ヤマシギである。

ヤマシギは本州以北で繁殖し、本州や九州、四国、沖縄で越冬する鳥である。日本全国で見ることができるのだが、昼は林の中でじっとして夜活動するので、見かけることが少ない。それでも繁殖期には、夕暮れの林の上空を「ピッチ、ピッチ」と鳴きながら飛ぶ姿を見ることができる。

ふつう、肉食動物の眼は前方に並んでいて、両眼視することができる。狩りをするときに、獲物との距離を正確に知る必要があるからだ。ところが、草食動物の眼は顔の両側についていて、周囲を広く見わたすことができる。天敵が近づくのを、いつも気にしなければならぬからだろう。

その極端な例がヤマシギだ。ヤマシギの食べ物は、土中のミミズなどである。くちばしの先にはグランドロイ氏体という感覚器官がある。ヤマシギは土にくちばしを突きさし、この感覚器官を使ってミミズを探り捕るのである。食物を探すのに、視覚を使わないのですむのだ。

だが、うつむいて食物を探らなければならないため、ふつうの眼では周囲を見張ることができない。土にくちばしを突きさしているときでも周囲を見張れるようにするには、視野を広くする方向に進化する必要があったのだろう。

ヤマシギは、眼が頭のやや後ろの頭頂近くにあるので、一度に周囲をあますところなく見渡せるのである。ところが残念なことに、人間にはヤマシギがどのような世界を見ているのかは想像すらできない。

人の眼は、両眼で物を見るようにできている。両眼で物を見ると立体的に、あるいは遠近がはっきりと見えるのである。ヤマシギは、視野を広げるために両眼視を犠牲にしている。二つしかない眼だから、どちらかを犠牲にするしかない。ヤマシギが物を立体として見ることができるのは、前方と後方のごく狭い範囲だけである。

(柚木修『カルガモ親子はなぜ引越す』PHP研究所)

問1 ヤマシギの生態について、文章の内容と合っているものはどれですか。

22

1. ヤマシギは、日本では北の地域にしかいない。
2. ヤマシギは、日本で繁殖しない。
3. ヤマシギは、夜行性である。
4. ヤマシギは、木の実を食べる。

問2 ヤマシギの捕食に関する説明として、最も適当なものはどれですか。

23

1. 獲物との距離を眼で正確に測って狩りをする。
2. 周囲を広く見渡して獲物を探す。
3. 獲物を見つけてくちばしで突きさす。
4. くちばしの先を使って獲物を探す。

問3 ヤマシギの眼が、頭のやや後ろの頭頂近くにあるのはなぜですか。

24

1. 食物を探している間も周囲に気を配るため
2. えさとなる昆虫を広い範囲から探すため
3. 天敵に対し、自分を強く見せるため
4. 獲物を探すとき眼が邪魔にならないようにするため

問4 ヤマシギの視覚の特徴として、最も適当なものはどれですか。

25

1. 周囲360度が見える上に、遠近の判断能力も高い。
2. 後ろのほうはよく見えるが、前のほうはよく見えない。
3. 広い範囲が見えるが、平面的にしか見えない。
4. 視野は広いが、立体的に見える範囲は限定される。

——— このページには問題はありません。 ———

聴読解問題

説明

聴読解問題は、問題冊子に書かれていることを見ながら、音声を聴いて答える問題です。

問題は一度しか聴けません。

それぞれの問題の最初に、「ポーン」という音が流れます。これは、「これから問題が始まります」という合図です。

問題の音声の後、「ポーン」という、最初の音より少し低い音が流れます。これは、「問題はこれで終わりです。解答を始めてください」という合図です。

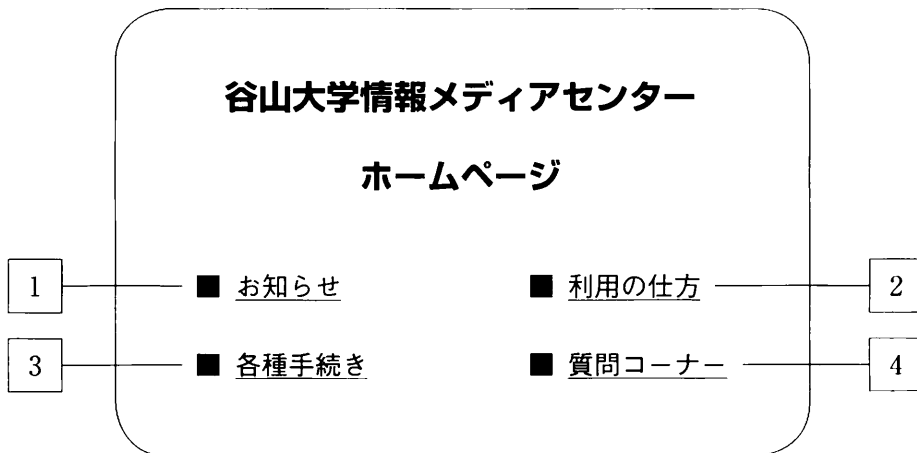
選択肢 1, 2, 3, 4 の中から答えを一つだけ選び、聴読解の解答欄にマークしてください。

1 番の前に、一度、練習をします。

聴読解問題

練習

学生がコンピュータの画面を見ながら先生の説明を聞いています。学生は今、画面のどの項目を選ばいいですか。



1 番

女子学生と男子学生が掲示を見ながら話しています。この女子学生が、サークルの届出をするためにこれからしようとしていることは、どの条件に^{かか}関わることですか。 1

[学生生活課からのお知らせ]

サークルを登録しませんか？

サークル活動を大学に届け出ることによって、大学施設の利用や学生保険の適用、活動補助費（上限20万円）の申請が可能になります。

届出の条件

- 1 — ・構成員が15人以上であること。
- 2 — ・構成員の所属する学部が2学部以上にまたがること。
- 3 — ・責任者となる専任の教職員が1人いること（責任者は他のサークルとの兼任はできない）。
- 4 — ・活動実績が1年以上あること（活動期間を証明できる書類を添付する）。

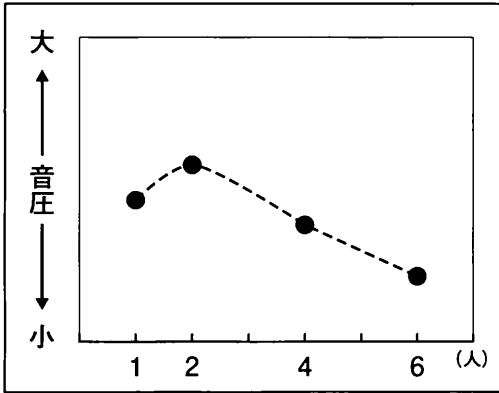
2 番

先生が、集団で作業をする際の作業量に関する実験について話しています。この実験結果を図にすると、どのようになりますか。

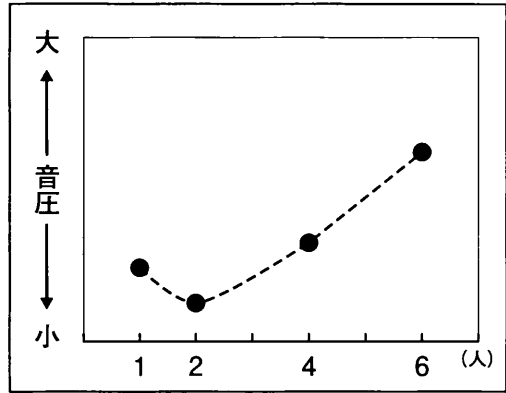
2

集団の人数と1人当たりの音圧

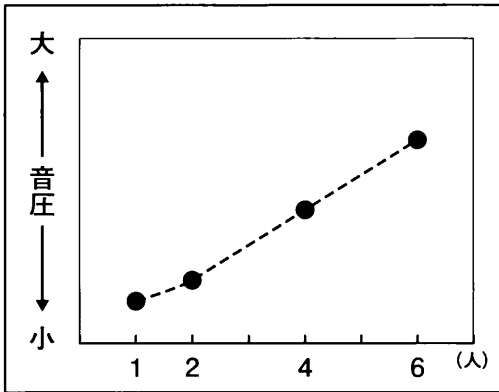
1.



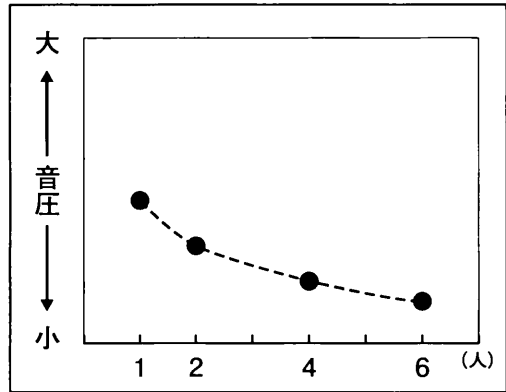
2.



3.



4.



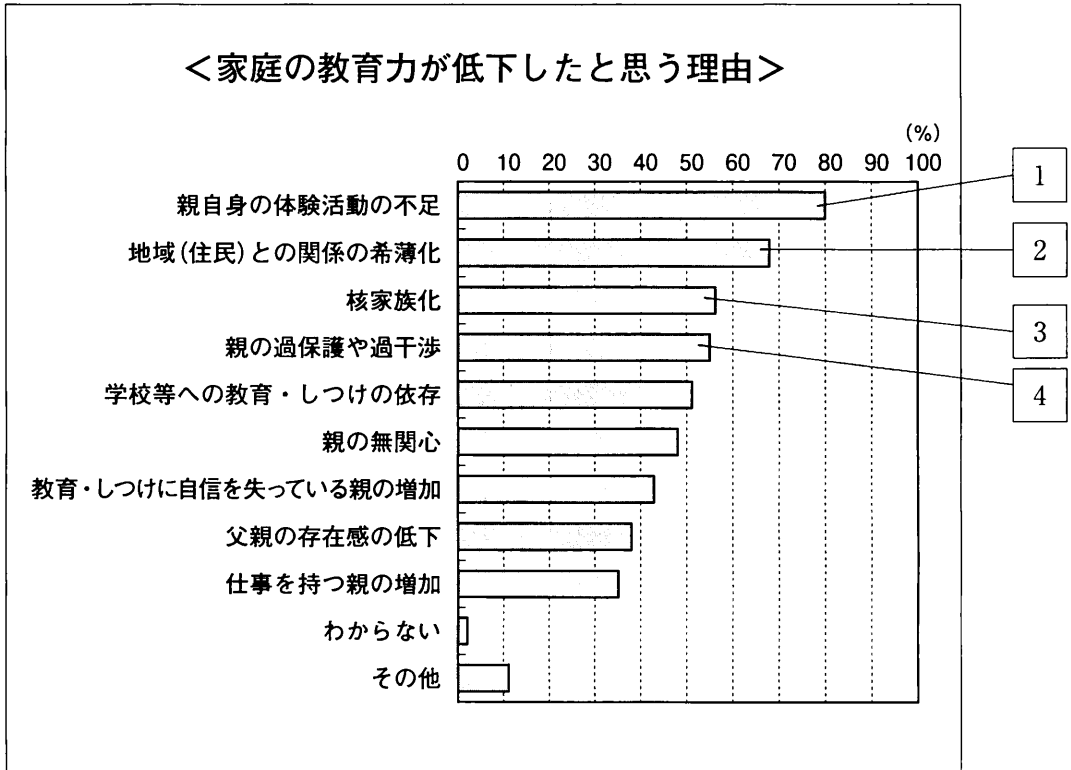
(『Journal of Personality and Social Psychology vol.37, No.6』

Bibb Latané 他 を参考に作成)

3番

先生が、教育学の授業で、家庭の教育について話しています。この先生は、家庭の教育力の低下に最も影響しているのは、グラフのどの項目だと言っていますか。

3



(全国都道府県教育長協議会第2部会「これからの家庭教育の在り方について」

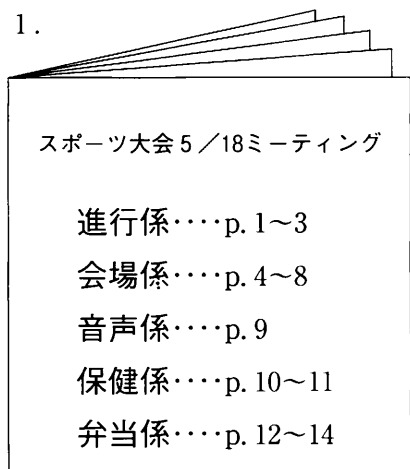
平成18年度研究報告No.2 を参考に作成)

4 番

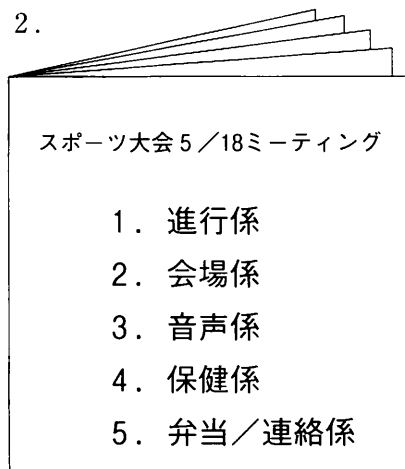
スポーツ大会の委員達が反省会をしています。反省点の一つである“配付資料”は次回からどのような形式にしますか。

4

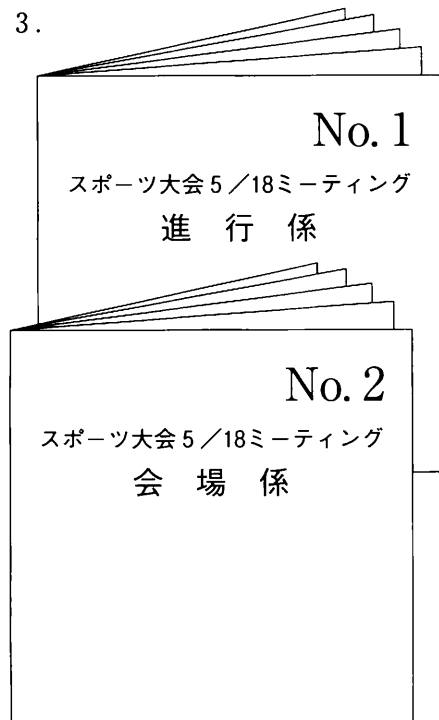
1.



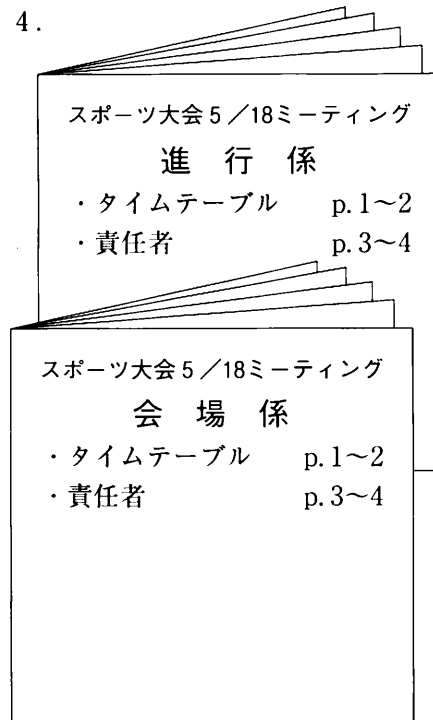
2.



3.



4.



5 番

先生が、経営学の授業で、企業の業界での位置について話しています。この先生が最後に挙げる例は、資料のどこにあてはまりますか。

5

企業の4タイプ

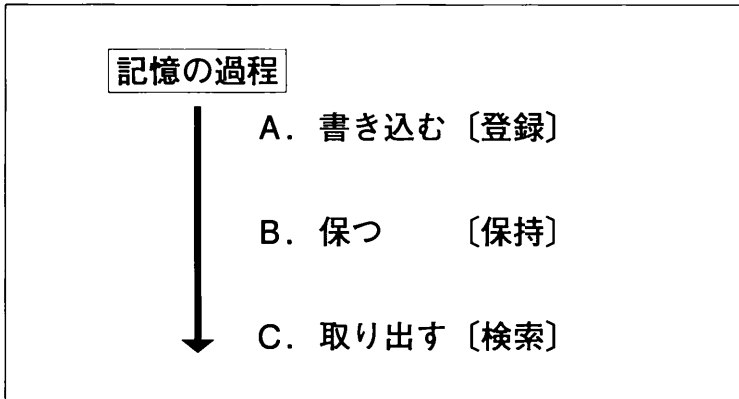
		量	
		大	小
質	高	1	2
	低	3	4

(田中洋他『はじめてのマーケティング』日本経済新聞社 を参考に作成)

6 番

先生が記憶の過程について話しています。この先生は、アルツハイマー病の初期には脳の障害によって、記憶のどの過程に問題が生じると言っていますか。

6



(東京都神経科学総合研究所「身近な医学研究 記憶 第1話 記憶の種類」

<http://www.tmin.ac.jp/medical/08/memory1.html> を参考に作成)

1. A
2. B
3. C
4. A, B, Cすべて

7 番

男子学生と女子学生が、小学生の話し合いのしかたについて話しています。この女子学生が、今日、新しく加えたルールはどれですか。

7

	××区 子ども会 話し合いプロジェクト	○月×日改定
	話し合いのルール	
1	・話し合いの時間にだけ、議論する。	
2	・話を聞くときは、他のことをしない。	
3	・他人の発言をさえぎらない。	
4	・話すときに泣いたり怒ったりしない。	
	・わからないことがあったら質問する。	
	・話すときは、だらだらとしゃべらない。	

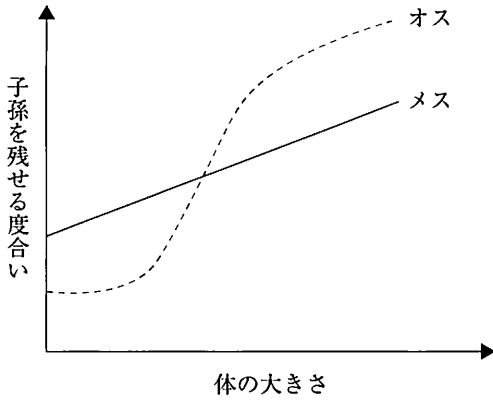
(北川達夫他『図解 フィンランド・メソッド入門』経済界 を参考に作成)

8 番

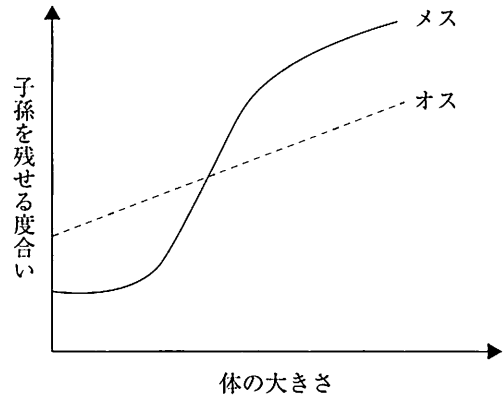
生物学の先生が、動物の体の大きさと、子孫を残せる度合いとの関係について説明しています。一夫一妻方式の動物について、先生の説明をグラフにすると、どのようになりま
すか。

8

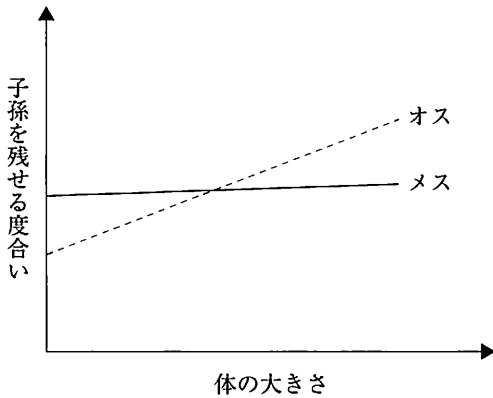
1.



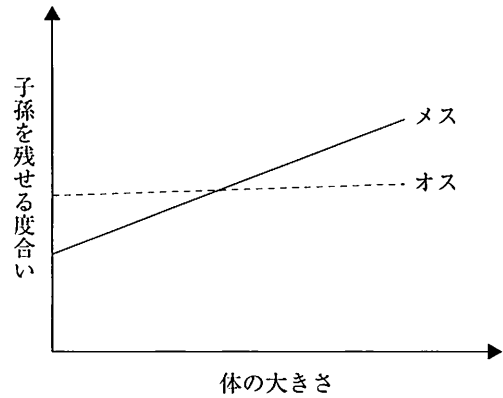
2.



3.



4.



(長谷川真理子『オスとメス・性はなぜあるのか』日本放送出版協会 を参考に作成)

9 番

男子学生と女子学生が、商品やメーカーに対する好感度について話しています。この男子学生は、表のどの点数に注目していますか。

9

〈商品やメーカーに対する好感度〉

0～100点

		デザイン		
		よい	普通	悪い
性能	よい	100点	60点	20点
	普通	20点	40点	20点
	悪い	0点	0点	20点

1

2

3

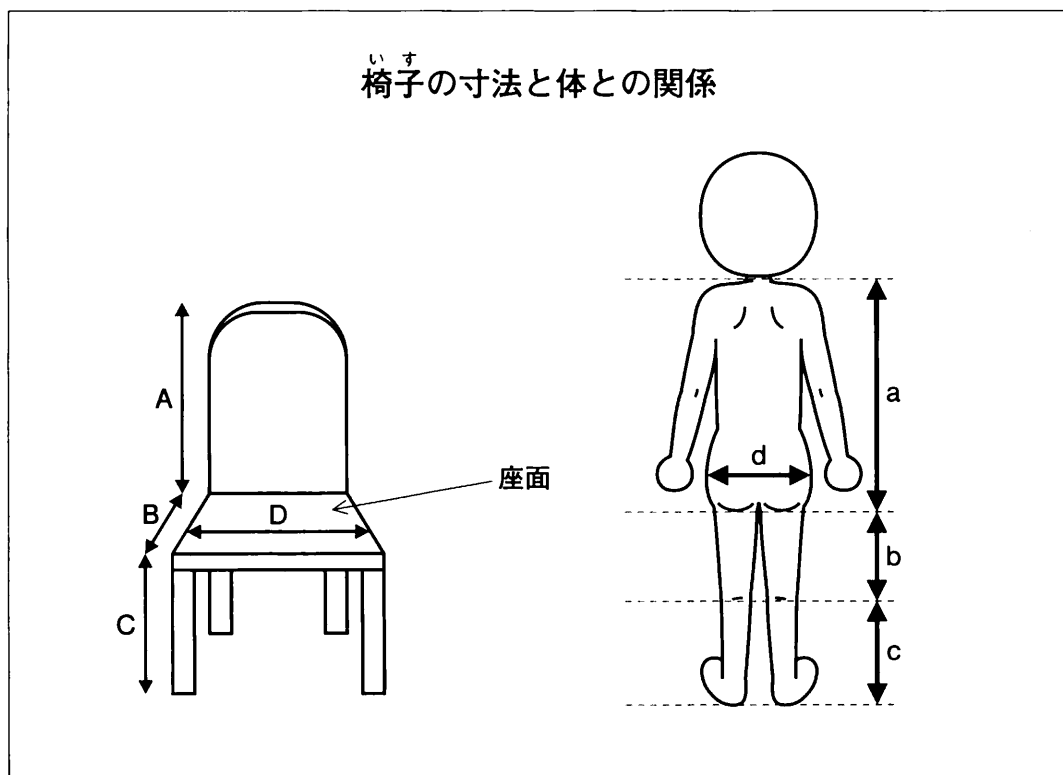
4

(木全賢『売れる商品デザインの法則』日本能率協会マネジメントセンター を参考に作成)

10番

先生が、人間工学の授業で、椅子の寸法と人間の体の関係について話しています。この先生が説明しているのは、図のどの部分の長さについてですか。

10



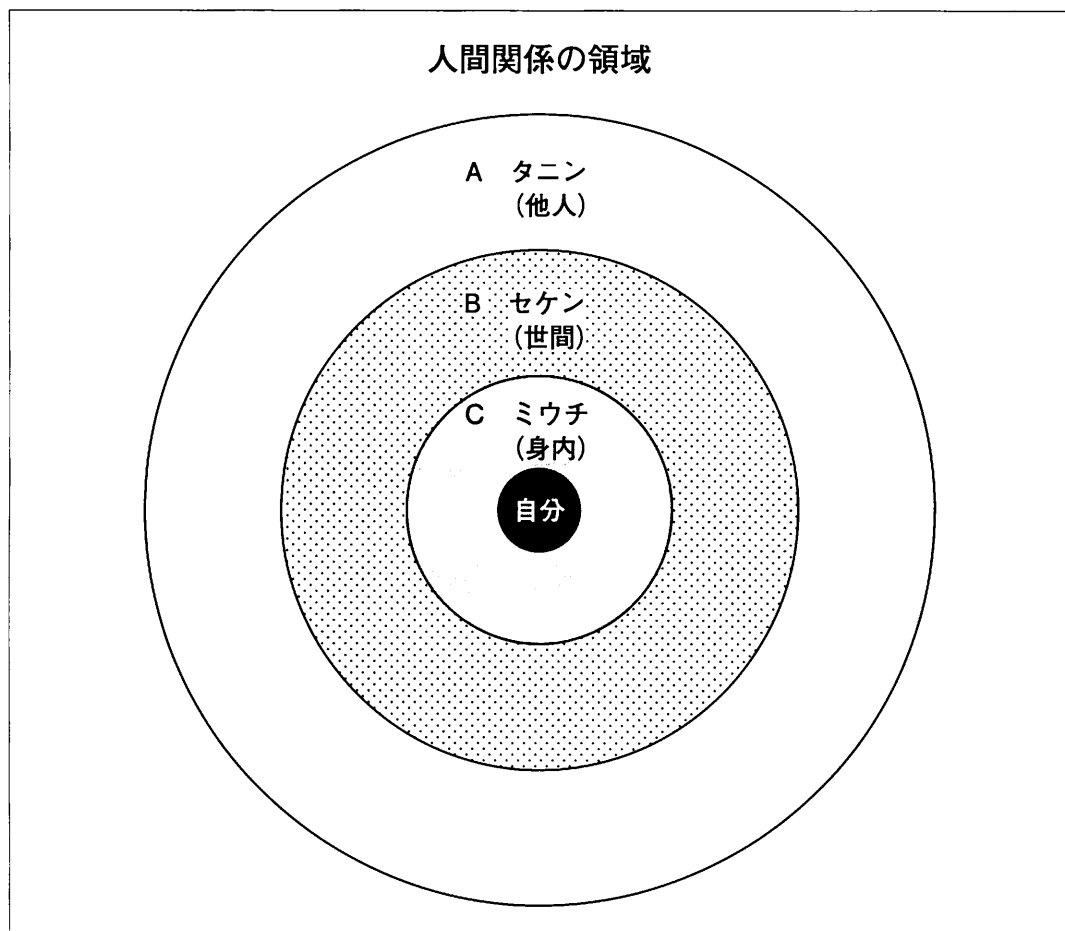
(心地よい椅子を科学する研究会編【椅子の科学】日刊工業新聞社 を参考に作成)

1. Aとa
2. Bとb
3. Cとc
4. Dとd

11番

先生が、社会学の授業で、人間関係の領域について説明しています。この先生が最後にする質問の答えはどれですか。

11



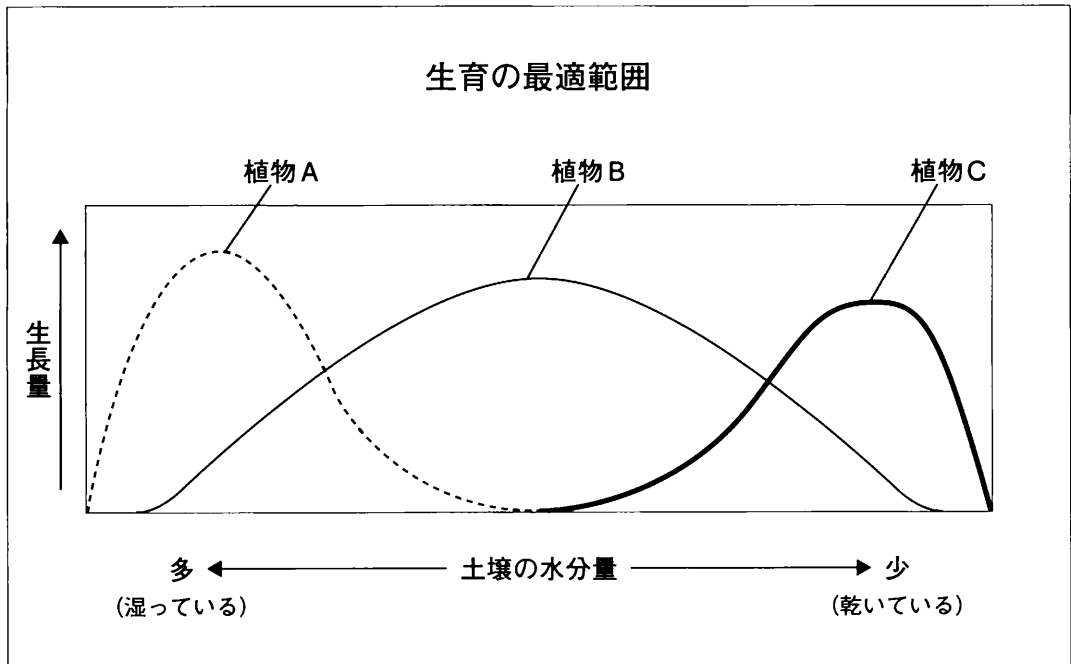
(菅原健介『羞恥心はどこへ消えた?』光文社 を参考に作成)

1. AからB
2. BからA
3. BからC
4. CからB

12番

先生が、植物の生育と競争の関係について、話しています。植物自体にとって、本来の最適な条件の場所に生育しているのは、図のどの植物ですか。

12



(宮脇昭『いのちを守るドングリの森』集英社 を参考に作成)

1. 植物 A
2. 植物 B
3. 植物 C
4. 植物 A と植物 C

——— このページには問題はありません。 ———

聴解問題

説明

聴解問題は、音声を聴いて答える問題です。問題も選択肢もすべて音声で示されます。問題冊子には、何も書かれていません。

問題は一度しか聴けません。

このページのあとに、メモ用のページが3ページあります。音声を聴きながらメモをとるのに使ってもいいです。

聴解の解答欄には、『正しい』という欄と『正しくない』という欄があります。選択肢1, 2, 3, 4の一つ一つを聴くごとに、正しいか正しくないか、マークしてください。正しい答えは一つです。

一度、練習をします。

この問題冊子を持ち帰ることはできません。

— ヌ 毛 —

— ヌ 毛 —

— ヌ 毛 —

平成22年度日本留学試験(第2回)試験問題 正解表

〈日本語〉

記 述 問題解答例を315ページに掲載

読解			
問	解答欄	正解	
I	1	4	
II	2	4	
III	3	2	
IV	4	3	
V	5	2	
VI	6	1	
VII	7	1	
VIII	8	4	
IX	9	2	
X	問1	10	3
	問2	11	1
XI	問1	12	2
	問2	13	4
XII	問1	14	1
	問2	15	1
XIII	問1	16	1
	問2	17	2
XIV	問1	18	2
	問2	19	2
XV	問1	20	2
	問2	21	3
XVI	問1	22	3
	問2	23	4
	問3	24	1
	問4	25	4

聴読解			聴解		
問	解答欄	正解	問	解答欄	正解
1番	1	2	13番	13	1
2番	2	4	14番	14	1
3番	3	2	15番	15	2
4番	4	1	16番	16	2
5番	5	2	17番	17	1
6番	6	1	18番	18	3
7番	7	1	19番	19	4
8番	8	4	20番	20	2
9番	9	4	21番	21	3
10番	10	3	22番	22	1
11番	11	2	23番	23	4
12番	12	2	24番	24	4
			25番	25	2
			26番	26	3
			27番	27	3

「記述」問題解答例

①

日本の食生活は、内容も食事の仕方もずいぶん変化している。昔は、毎日家で料理を作り、それを決まった時間に家族でゆっくり食べていた。しかし、現在、特に都会では、大人も子どもも時間に追われ、家族との食事より仕事や勉強を優先し、各自好きな時間に好きなものを食べることは珍しくなくなっている。また、結婚しない人や一人暮らしの高齢者、厳しい経済状況で食事の質より安さや量を優先する人も多い。そこで、東京では、安価な弁当やレトルト食品がどこでも買えるようになり、一人でも気軽に食事できる場所も増えている。

一方、このような食生活の変化は、肥満や成人病の増加につながるといった悪影響が指摘されており、食生活を見直そうという動きが出始めている。無添加食品や無農薬野菜への関心や伝統的な食事への回帰志向などは食事の質を重視する例であろう。

日本経済の現状から、食事の時間と費用を極力省こうとする傾向は今後も続くと思う。しかし、体によいものをゆっくり味わうべきだという意識も広がっていることから、日本人の食事のあり方は、手間をかけて食べるタイプとかけないタイプに分かれると思う。

②

現在、日本では都市部に多くの人に移り住んでいる。就職や就学の機会が、地方よりも多様かつ豊富であるため、そのような傾向がみられるのだと思う。

しかし、人が多いことによる悪影響もある。たとえば、土地の値段が高いため、職場や学校から離れた郊外に、狭い住居しか用意できない人がほとんどだ。よって、朝晩の電車は不快なほど混雑していて、乗車時間も長い。そのため、睡眠時間や個人の時間を確保するのが難しく、疲れがたまりやすい。また、ひとたび交通機関が麻痺すれば、かなりの人々が帰宅手段を失うことになる。彼らが歩いて自宅を目指した場合、主要幹線道路は人であふれるともいわれている。就職や就学の機会が豊富な都市部には、このようリスクもあるのだ。

これらのリスクを避け、快適な生活を求める人々が、今後、地方に移っていくだろう。通信技術の発達により、コンピュータなどの機器さえあれば場所や時間に拘束されずに、仕事や勉強ができるようになってきた。就職や就学の機会が増せば、地方に住む人も増え、都市部に人が集まる傾向はだんだんと緩和されていくだろうと私は考える。

「記述」採点基準

「記述」の採点にあたっては、以下の基準に基づき採点し、それぞれの得点を表示します。

得点	基準
50点	(レベルS) 課題に沿って、書き手の主張が、説得力のある根拠とともに明確に述べられている。かつ、効果的な構成と洗練された表現が認められる。
45点	(レベルA) 課題に沿って、書き手の主張が、妥当な根拠とともに明確に述べられている。かつ、効果的な構成と適切な表現が認められる。
40点	
35点	(レベルB) 課題にはほぼ沿って、書き手の主張が、おおむね妥当な根拠とともに述べられている。かつ、妥当な構成を持ち、表現に情報伝達上の支障が認められない。
30点	
25点	(レベルC) 課題を無視せず、書き手の主張が、根拠とともに述べられている。しかし、その根拠の妥当性、構成、表現などに不適切な点が認められる。
20点	
10点	(レベルD) 書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
0点	(NA)* 採点がなされるための条件を満たさない。

レベル A, B, C については、同一水準内で上位の者と下位の者を区別して得点を表示する。

* 0点 (NA) に該当する答案は以下の通りである。

- 白紙のもの。
- 全文が日本語以外の言語で書かれているもの。
- 全文が課題文の引き写しで終わっているもの。
- 与えられた両方の課題 (①と②) について書かれているもの。
- 与えられた両方の課題 (①と②) の、どちらについて書かれているか判断できないもの。
- 与えられた課題とまったく無関係なことが書かれているもの (問題冊子の表紙等、課題と関係のない文章を引き写している、あるいは自己紹介で終わっている等)。
- その他、委員会の議を経て、0点とするに至る十分な理由があると判断されたもの。